令和元年７月１日
新潟県病害虫防除所

令和元年度

新潟県病害虫発生予察速報第５号

（斑点米カメムシ類の発生状況）

１　斑点米カメムシ類主要加害種の発生状況（６月下旬）

（１）水田畦畔におけるカメムシの種類別発生量（表１、２）

・県全体のアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメの確認地点率、すくい取り虫数は**平年並だが、下越、佐渡地域ではアカスジカスミカメの確認地点率が平年比高く、確認虫数も平年比多いなど、地域によって差が大きい。**

・県全体でのオオトゲシラホシカメムシの確認地点率は**平年比低く**、すくい取り虫数は**平年比やや少ない。**

（２）出穂したスズメノテッポウ等、雑草が多い一部ほ場で本田内にアカスジカスミカメが多く生息している事例が見られる。

（３）６月２７日現在、北陸地方では向こう１か月間の気温はほぼ平年並に推移すると見られる。

表１　斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り確認地点率（単位：％）

種　類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカスミカメ	**本　年**	**50.0**	**38.5**	**28.6**	**15.4**	**16.7**	**77.8**	**36.0**
	前年(平30)	42.9	46.2	7.1	37.5	0.0	33.3	27.1
	平　年	22.2	21.4	40.1	43.3	28.3	31.7	29.8
	平年比	高	やや高	並	やや低	やや低	高	並
アカヒゲホソミドリカスミカメ	**本　年**	**64.3**	**69.2**	**35.7**	**23.1**	**8.3**	**11.1**	**37.3**
	前年(平30)	50.0	38.5	28.6	25.0	0.0	0.0	25.7
	平　年	38.0	38.7	47.6	31.1	22.5	7.8	34.9
	平年比	やや高	やや高	やや低	並	やや低	並	並
オオトゲシラホシカメムシ	**本　年**	**0.0**	**7.7**	**7.1**	**0.0**	**16.7**	**0.0**	**5.3**
	前年(平30)	14.3	23.1	14.3	0.0	0.0	0.0	10.0
	平　年	7.9	8.8	20.8	26.3	22.5	2.2	14.5
	平年比	やや低	並	やや低	低	並	並	低

表２　斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り虫数（単位：頭／地点、20回振り）

種　類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカスミカメ	**本　年**	**14.5**	**0.6**	**3.6**	**1.3**	**0.3**	**7.3**	**4.4**
	前年(平30)	1.4	1.9	0.1	7.8	0.0	1.8	1.9
	平　年	2.0	1.4	9.6	7.9	1.9	1.5	4.2
	平年比	多	並	やや少	やや少	やや少	多	並
アカヒゲホソミドリカスミカメ	**本　年**	**6.2**	**5.0**	**2.3**	**0.5**	**0.3**	**0.1**	**3.3**
	前年(平30)	1.9	3.4	1.3	3.1	0.0	0.0	2.0
	平　年	2.4	4.6	8.6	2.5	1.1	0.2	4.1
	平年比	多	並	やや少	やや少	やや少	並	並
オオトゲシラホシカメムシ	**本　年**	**0.0**	**0.1**	**0.1**	**0.0**	**0.2**	**0.0**	**0.1**
	前年(平30)	0.1	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0	0.4
	平　年	0.1	0.2	0.9	0.6	0.5	0.1	0.4
	平年比	やや少	やや少	やや少	やや少	やや少	並	やや少

※表１，２：畦畔すくい取り調査結果（病害虫防除所巡回調査、75地点、６月下旬）

　　：確認地点率（確認虫数）が平年比やや高～高（やや多～多）となったもの

2　当面の対応と注意事項

斑点米カメムシ類主要加害種のうち、カスミカメムシ２種（アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）の発生量は斑点米の発生に大きく影響するため、以下の対策を徹底しこれらのカメムシの増殖を抑制する。

（１）水田周辺の雑草管理

ア　カスミカメムシ類は、メヒシバ、イタリアンライグラス、エノコログサ等の出穂したイネ科植物に好んで寄生し、増殖する。畦畔・農道等の除草を徹底し、斑点米カメムシ類の増殖を抑え、水稲の出穂期以降の水田侵入量を減らす。

イ　イネ科雑草が出穂しない間隔で草刈りを繰り返すことで、畦畔雑草地での斑点米カメムシ類の密度を低く抑えることができる（下図参照）。また、斑点米カメムシ類を対象とした薬剤防除実施前に草刈りを行うことで防除効果を高めることができる。

ウ　水稲の出穂期後もメヒシバ等のイネ科雑草が出穂・結実しないよう除草を継続する。

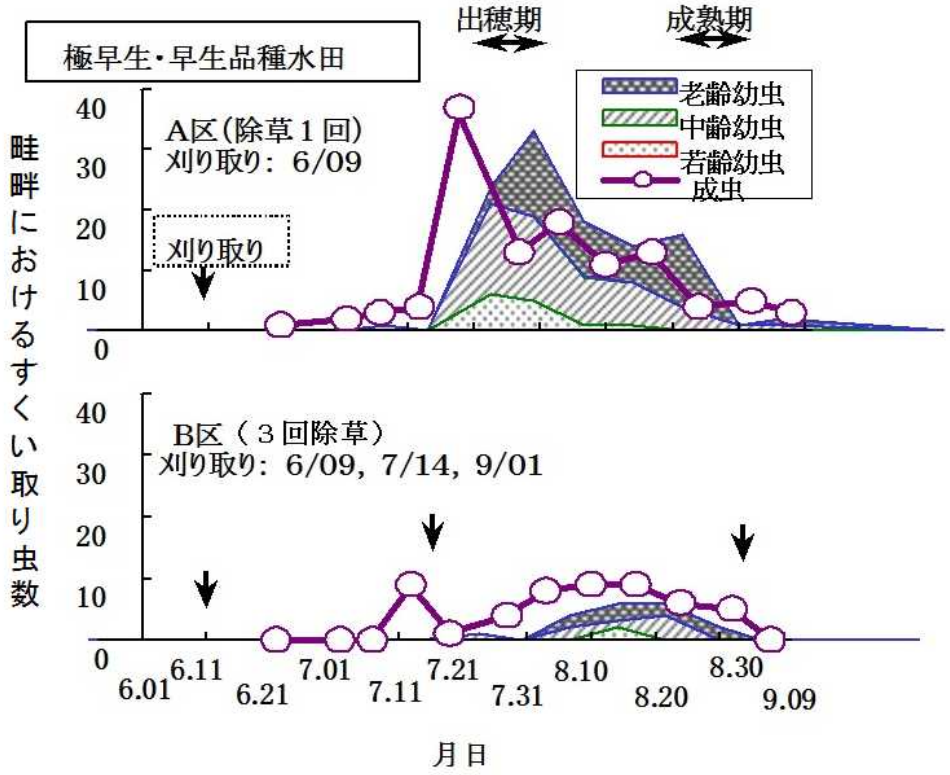

図　水田畦畔の除草回数とアカヒゲホソミドリカスミカメのすくい取り虫数の関係
上：除草回数１回　下：除草回数３回　（平成１５年　新潟県作物研究センター）

（２）水田内雑草の管理

水田内雑草（ノビエ、イヌホタルイ等）の繁茂・結実は、斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を助長する。特に水稲の出穂期頃の水田内に開花したイヌホタルイが多いとアカスジカスミカメが侵入しやすく、被害が大きくなるため早めに除去する。

（３）注意事項

ア　水稲の出穂期予想の情報に留意し、品種ごとに適期に薬剤防除できるよう防除計画を立てる。

イ　カメムシ類の発生動向については今後発表される最新の発生予察情報に留意する。